

河川漁場環境基礎調査

河川定期観測調査

森脇晋平・角 敬

県内の1級河川である江川、高津川、斐伊川、神戸川の環境について平成元年度から基礎データを得るために定期観測調査を継続しているが、ここに平成3年度の結果を報告する。

調 査 方 法

1. 調査地点

図1に示した11地点で実施した。

2. 調査項目

調査項目は、水温、pH、SS、石への砂泥付着状況、底生物（水生昆虫）である。石への付着状況についてはその沈澱量、湿重量、乾燥重量、および灼熱残渣量を調べた。なお、各調査項目の測定方法については「江川アユ生息環境調査」に準じて同一の方法で行っているが、詳細は昭和60年度の事業報告を参照されたい。

3. 調査期日

平成3年	4月	16～17日、22日	5月	7～9日
	6月	5～7日	8月	6～8日
	9月	3～5日	10月	1～2日、7日
	11月	13～15日		

結 果 と 考 察

水質、石の付着物の状況、底生物（水生昆虫）の調査結果を付表1～16に示した。

水温は各河川とも4月の12～15℃台から8月の25～27℃台にまで上昇するが、その後11月には再び12～15℃台に低下する。pHは6.6～7.7の範囲を変動した。SSはほぼ10ppm以下の値を示したが、10月には降雨の影響とみられる数値の上昇が認められた。

石への付着物状況については場所により大きく変動している。灰分量をみると一般に数値は高いが、全体としてみると春と秋遅くに低下する傾向がみられる。

水生昆虫については特に例年と種組成の変化は認められていない。

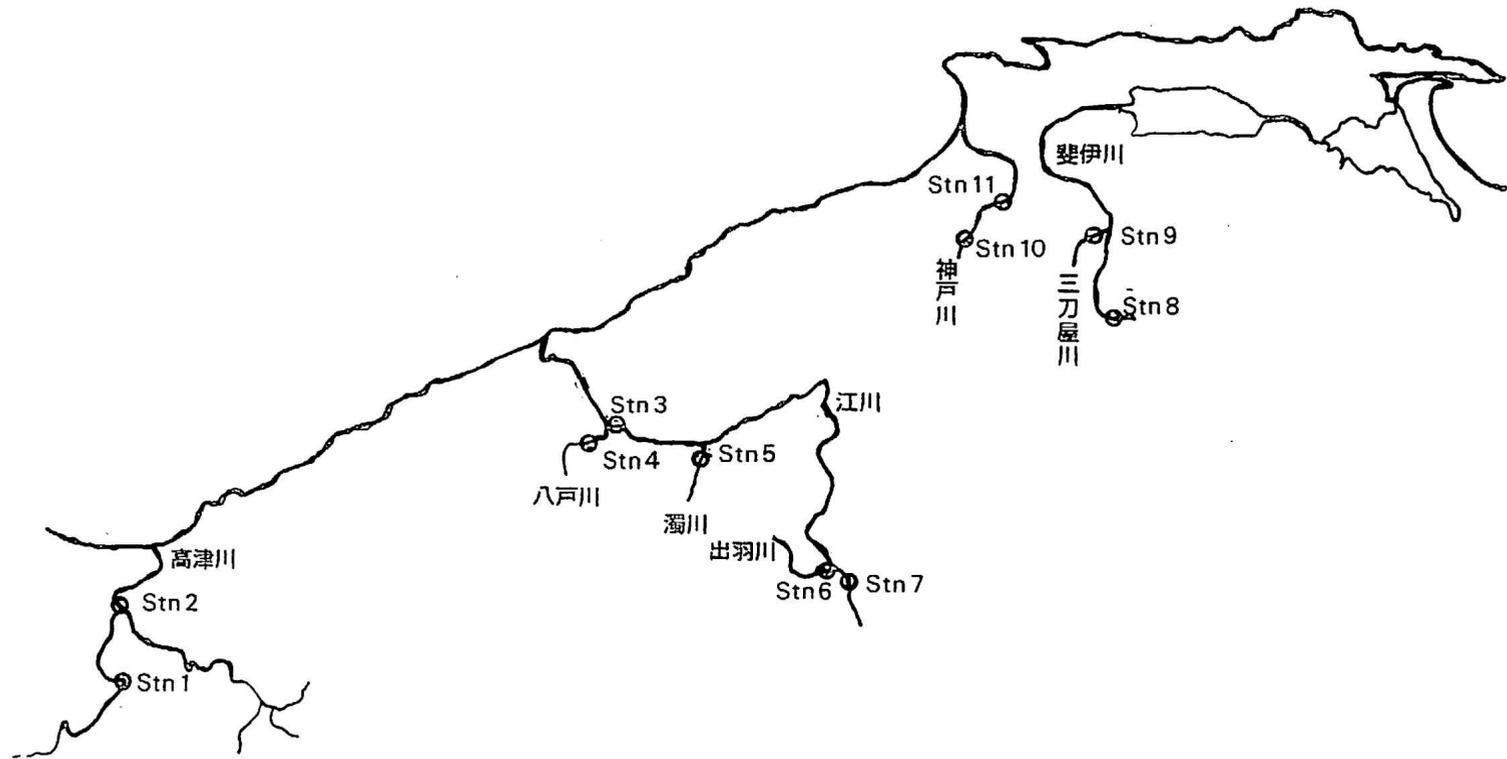


図1 調査点